

開成校新聞

発行
開成中等新聞局
発行責任者 宮崎
* * *
制作者
清水 菅原 齋 眞田

1/365コマ



腕章
が新し
くまし
ました
。新聞
局公式
「みか
み先生
」を見
つけて
います
。

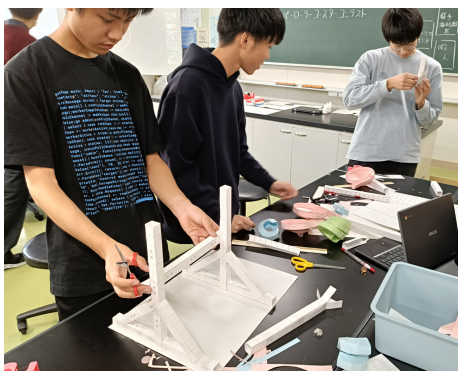
「開成チームの中では一位で、宮崎県の学校を除けば全国2位だったので、良い結果が出た良かった」と喜びを噛みしめた。

に参加したが、まさに時間との勝負であった▼製作時間が限られている中で、30秒ちょうどにゴールするようなコースターを作る必要があり「あと30分しかない!」「ゴールまでの時間をあと10秒増やさないと!」といった悲鳴が上がっていた▼時間の流れは本当に速い。つい最近まで、息が白いことに驚いていたのに。

ペーパーローラーコースターコンテスト開催

10月26日、京都府の洛北高校が主催する「ペーパーローラーコースターコンテスト」(以下PRCC)が開催され、本校からは5チームが参加した。そのうち「徒歩海経験者」のチームが全国6位となり、メンバーの3年品田幹太さんは「良い結果が出て良かった」と喜んだ。

"紙"一重の戦い



▲コースターを作る「徒歩海経験者」のチームメンバー

PRCCは、ちょうど30秒でゴールにビー玉が到達するようなコースターを作る大会だ。コースターは紙とセロハンテープのみで製作し、2時間半で完成させなければならぬ。ゴールタイムと目標タイム(30秒)の誤差によって計算される「タイムポイント」と、「タイムポイント」で、コース内に指定されたギミックがどのくらい入っているかによって計算される「テクニカルポイント」の合計ポイントを競う。

今大会はオンラインで開催され、全国各地の中学校や高校から52チームが参加した。優勝したのは宮崎県の都城泉ヶ丘高校チームで、2位から4位は同県の都城泉ヶ丘中学校のチームであった。

本校のチーム「徒歩海経験者」は優勝チームに4・6ポイント及ばなかったものの、124・9ポイントを獲得し6位となった。大会終了後、メンバーの3年品田幹太さんは「最初は個人でパーツを作っていて、残り30分ぐらいで作ったパーツを合わせ、コースを完成させようと頑張ったことが楽しかった」と振り返った。一方で、「製作終了時間に間に合わせなければいけないため、多少クオリティを犠牲にしなければいけなかったのが大変だった」と話した。6位という結果については

時計の針が一瞬止まって見える現象を「クロノスタシス」と言うらしい▼言うまでもないが、時間が止まることは決してない▼局員もPRCC

今年度より新設されたユニット紹介の第2弾はクイズ研究班だ。同班では、総勢18人の班員が週1回の頻度で、全校にクイズの楽しさを広める事を目的に活動をしている。主な活動内容として、早押しクイズやクイズの企画、学校外のクイズ大会への参加を行っている。クイズを通して、学ぶことの楽しさを異学年・実力差のある生徒同士の交流によって深めている。11



▲真剣に話を聞きメモをとる1年生

1年生 企業を訪問

1年生が様々な企業を訪問する札幌探訪が11月6日に行われた。生徒は今後のSA活動のために、企業がニーズを調査する方法を学んだ。訪問した企業は校内実施2社を含む、コー

プさつぼろや消防科学研究所などの合計9社であった。生徒は訪れた企業の方の講義を受け、業務内容を見学した。参加した生徒は「客観的に物事を見ると良いとわかった」と話した。

②クイズ研究班



月から、校内のラウンジにて同班による謎解きのクイズラリーも開催されている。班長の5年4組横澤匠さんは「班員が意欲的に活動をし、メンバーを増やしていくことや、憧れの大会での活躍が今後の展望だ」と語っている。



▲クイズを楽しむ班員